

親子で考えてみませんか。水・自然・暮らしの明日。



財団法人河川環境管理財団研究顧問
河川環境総合研究所大阪研究所所長
京都大学名誉教授
芦田和男先生

「たくさんの人に琵琶湖を見てほしいですね」

琵琶湖の水質には私たちの生活や産業、自然環境などさまざまな要素がからんでいます。そこで琵琶湖水質保全対策行動計画は、(1)水質(2)自然環境・景観(3)水源・水循環という3つの要素をとり入れた流域全体の総合保全という考え方にもとづいて進められています。たとえば自然環境・景観の問題というと、今は湖岸も都市化が進みましたが、自然を回復していくことで水の浄化能力を高めていくことができるんです。私たちが子ども頃は、小さい川にもたくさん魚がいて、人間が出したさまざまなものを食べて、琵琶湖に流れ出る前に除去してくれました。また、湖岸のヨシ地帯も昔と比べると減りましたが、このヨシにも水質の浄化能力があるといわれています。今の私たちの生活を昔と同じ状態には戻せなくても、自然と共生するものに変えていかないといけない。そのために考えなければいけないこと、できることはいっぱいあると思います。

水をきれいにするとりくみは、琵琶湖周辺の方たちはもちろん下流域の方たちも含めたみなさんがいっしょに考えていくのが理想です。そのためには、下流域の方にもぜひ琵琶湖に気軽に来てもらいたいですね。この水が流れてきて多くの人の生活が恩恵を受けていることを知ってほしい。琵琶湖をたくさんの人に見てもらって、愛してもらって、関心を

持つてもらうことで、水を守る意識を持つてもらいたいと願っています。アクア琵琶などの施設もそうした水への意識を高める役割の一旦を担っていると思いますよ。

私たちの生活から出る汚れをどれだけ少なくできるかは、一人一人のライフスタイルをどこまで変えられるかにかかっています。これまでのように、ゴミを捨てないようにするとか、石けん運動なども大切ですが、これから必要なのは、たとえば地域から出た排水が琵琶湖にどんな影響を与えるかを追跡調査し、その結果を地域に情報として返していくことです。みなさんが生活から出る汚れを少なくすることでこれだけ環境が良くなるという情報があれば、やりがいも出てきます。

そうした活動を通して子どもたちにも自然と環境の大切さを教えられたら、素晴らしいですね。世代間のつながりを大切にしながら、親の世代も子どもたちのためにがんばろうという気持ちになつていく。私たちが子ども頃は、近くの川や琵琶湖で遊びながらいろんな体験をし、学びました。今の子どもたちにそんな機会がなくなってきたのは残念なことです。水質や環境の問題は教育の問題でもあるんですね。これらの問題を通して、大人も子どもも自然にもっと目を向けてもらえたらと思います。